

## キーワードは 「せんい・ファッション」

### 愛知県一宮市とイタリア共和国トレビーゾ市が 友好都市提携を結びました

1 月 30 日にイタリア共和国・トレビーゾ市役所タペストリー室において、一宮市とトレビーゾ市との友好都市提携調印式が執り行われました。この度、調印式を終えた一宮市から両市の交流について報告をいただきました。国際交流員による縁結び、共通の産業である「繊維・ファッション」をテーマに両市の経済発展を目指すなど、他の自治体交流で参考になる事例と考えますのでご紹介させていただきます。

一宮市	トレビーゾ市
	
人口 386,628 人 (2013 年)	人口 82,807 人 (2011 年)
面積 113.91 km <sup>2</sup>	面積 55.5 km <sup>2</sup>
産業 せんい産業を基盤として 繁栄し、地場産地のブ ランド強化を推進	産業 benetton、diadora など の本社があり、ファッシ ョン産業がさかん

#### 1. イタリアとの交流のきっかけ

一宮市とイタリア共和国との関係は、2005年の愛・地球博より始まりました。愛知県が提唱した「一市町村一国フレンドシップ事業」において、一宮市は万博期間中にイタリアをはじめとする6カ国との交流を実施しました。

一市町村一国フレンドシップ事業は、地域に根ざした「人」と「人」との交流が万博終了後も引き継がれ、世界をつなぐ架け橋となることを期待していました。一宮市はその理念を引き継ぎ、万博後もフレンドシップ国との交流事業を継続して実施してきました。とりわけ、イタリアとの交流には力を注ぎ、さまざまな国際理解講座等を開催し、市民がイタリアについて理解を深める機会を提供してきました。

## 2. トレビーゾ市との交流のはじまり

このような流れの中、単なる交流にとどまらない経済発展を含めた新たな交流の可能性を模索し、当時一宮市に勤務していたイタリア人国際交流員を介し、2007年より、彼女の出身地であるトレビーゾ市にあるIUAV大学ファッションデザイン学科の学生招致事業を開始しました。

それは、「繊維・ファッション」を共通テーマに、(財)一宮地場産業ファッションデザインセンター(FDC)の協力のもと、未来のイタリアファッション界を担うであろうファッションデザイン学科の学生に、当地域でつくられたテキスタイルを提供、作品を製作してもらい、優秀者を一宮市に招致するというものです。

招致した学生らは約1週間一宮市に滞在し、FDCでの講義や繊維関連企業・教育機関の見学、研修を通じてテキスタイルに関する知識や技能を学ぶとともに、ホームステイや小学校訪問により市民との交流を行っています。



元国際交流員リーザ・ダルブスコさん



市内繊維関連企業の見学

## 3. 友好都市提携に向かって

2010年7月、IUAV大学の招待を受け、市長および関係者が初めてトレビーゾ市を訪問しました。その際、トレビーゾ市長との会談も開かれ、その場で友好都市提携が提案されました。

また、同年にはトレビーゾ市において、日本を愛する有志による市民イベント「NIPPON-BASHI」が、翌年には一宮市において、イタリア音楽のステージやイタリア料理の販売などを中心とする「イタリアフェア」が始まり、それぞれの市民にお互いの国が紹介されることによって、友好都市提携への機運がさらに高まりました。

## NIPPON-BASHI



左：日本の雑貨に興味津々なトレビーズの人たち。日本のアニメのコスプレ姿も見られます。

右：一宮市のマスコットキャラクター・いちみんを抱いたトレビーズ市民。いちみんは両市の架け橋として大活躍しています。

他にも2008年より、両市の小学校間で絵手紙交換交流を実施しています。絵手紙には学校や家庭での生活の様子、好きな食べ物やスポーツ、アイドルのことなどがいきいきと描かれています。



## 4. 友好都市提携の実現



握手を交わし両市の「絆」を深める、谷市長(左)とゴッポ市長(右)

## イタリアフェア



左：イタリア出身のアーティストによる、ステージパフォーマンス。

右：市内高校生による、手づくりイタリア料理のプレゼント。市内有名ケーキ店による、イタリアンスイーツの販売ブースもありました。

こうした長年にわたる交流事業が実を結び、2013年1月30日、トレビーズ市役所において両市の友好都市提携調印式が執り行われ、一宮市初の海外友好都市が誕生しました。谷一夫・一宮市長は「絆を大切にした交流を通じて互いに発展し、次代を担う子どもたちに輝かしい未来を残したい」と演説し、その思いを込めた直筆の「絆」の色紙を、ゴッポ・トレビーズ市長に手渡しました。ゴッポ市長もまた、「人間同士の心のふれあいを大事にしたい」と語りました。

今後は現在の交流事業を継続させるとともに、さらなる交流の拡大が期待されます。さっそく、市内私立中学校の柔道部がトレビーズ市内の柔道クラブを海外遠征先に加えるなど、新たな広がりを見せています。

寄稿：一宮市国際交流協会(一宮市生涯学習課内)

<http://www.iaa-138.jp/>

